

This micrograph shows the interface between the substrate and the coating. The substrate is on the left, and the coating is on the right. The interface is marked by a distinct line.

口
演

しかし飽迄も御幼君御館城の決心とあらば、何條重ねて異議を申上ぐべき、御幼君の御下知に従ひ、常城に立籠り、公儀の討手を引受け、花々しく最期を遂ぐるで御坐る』

金町四丁目

[illegible]

大ター會社傑作天然色寫眞。○社

傳馬無雙の謁見、大坂入道、五文堂元興
改號は無比。驅逐水舟并部族川藏湖た改價則
尾上松之助一庵大車輪川口○吉岡伊達
宗全三郎六十八堀○新渡戸大退消火災○日頃
掘影所傑作○新渡戸大退新橋南詰全二條
二十八萬圓の落胆風潮に又様々○丹羽鶴
名にも高門敷数の運命は被女の前通を弄ひぬ
娘の顔色も色々の呟思ふわん一職婦人の哀解り最後
の大難題となり得る思ふわん八月下月滅に關し可
憐の名姓追記

天治和藏大纂與

實錄信田狐
全四卷卅八册
黃金館

京山恭爲

右師共大盛宣舞初登壇に於て露の四月午後六時より御演舞候間、數御來鑑之禮願上候

本座
電話五七八
十二月一日より新寫の披露へ
上松之期一連大車輪の活躍

泰西活劇豪勇上下二卷三千四
忘割子守咀最長尺

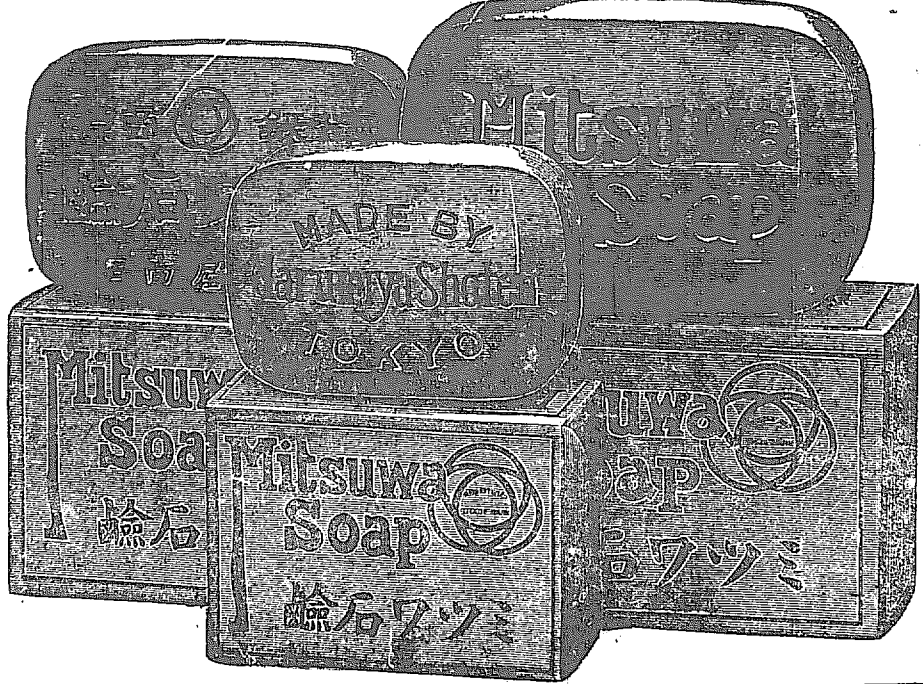
御成 町御成座
電話二九一
七日回替
一丁目 寒潮
二丁目 喜劇金鑑醫師
全八場
全三場

山竹子) ▲小田原騒動(一吉

子) △更秘勇婦傳(立花文子) △曾我夜討 △石重丸(女雲片衛門) △龜井登守(總掛合) 番外水戸黃門記(○○○亭春月)

擔任技師
工學士 藤野太治郎
工學士 越智圭一郎

凡そ石鹼は、工業用、洗滌用、洗濯用、浴槽用、化粧用等各用途に従つて其種類を異にす。雖も、而かも皆等しく、遊離の亞爾加里なく、遊離の脂肪なく、些の混合物なき化學上の純石鹼たらざるべからざるは、素より當然のことなりとす。皮脂の分泌量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黒を貴ぶ毛髪の洗滌に用ふべき化粧用石鹼は、雷に化學上の純石鹼たるの故のみを以て、其適否を論すべからず。




ミツワ石鹼

學上の純石鹼たるのみならず
左の性状を具備す。
原料を精選し、脂肪に香料に、
荷も刺激を感じずべき度あるも
のを用ひず。

溫雅の芳香を有す。
細き泡沫を生ず、適度の溶解
性を備へて能く水にも溶解し
而かも浴室に用ひて牛途に溶
け崩るゝが如き愛ひなし。

故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に適し
經濟に合する、理想的實用石鹼なり



MADE BY Mitsuiwa Shokai Co. KYO

Mitsuiwa Soap 石鹼

Mitsuiwa Soap

▲賣捌 全國到處の小間物店。化粧品店。藥舖。洋酒食料品店 ▼

本舖
ミツワ家庭薬
肝油ドロツクス
發賣元

丸見屋商店

管乘節電話
四四四四
五四四
九九八
番番番番

銀警
座口
浪京
花三
七一
番番番

米期
定期米賣買の榮無代進早
前金注文は紹介を要せず
大阪市北區堂島通二丁目
大阪堂島米取引所仲買人
誠商 入江商店
電話 東京 長 二六五
二七九六
秘 密 嚴 守

鑛山用
水銀
新荷著
保稅品有

京城本町二丁目
釘本藤次郎本店
電話原四五番二七七四番

價廉等位

本莊酒店

鶴

[illegible][illegible][illegible]

仁川切符發賣所 大阪商船會社 支店
 京阪切符發賣所 內國通運會社 支店
 電話二番二五五五番至五
 電話七八〇〇

日本郵船出帆
○大連奉天船行
○砂朥越
○三河丸
○大連丸
○大活行
○仁川海路
○丁島場回
○滿都
○廿七日
○午出帆
○正午出帆
○正午出帆
○正午出帆

[illegible]

三浦丸	十一月四日釜山發
豐興丸	十一月八日大田發
海州丸	十一月九日釜山發
統營丸	十一月九日釜山發
順天丸	十一月三日大田發
慶興丸	十一月七日日本浦發
公州丸	十一月十二日日本浦發
公州丸	十一月十三日日本浦發
公州丸	十一月十四日日本浦發
公州丸	十一月十五日日本浦發
公州丸	十一月十六日日本浦發
公州丸	十一月十七日日本浦發
公州丸	十一月十八日日本浦發
公州丸	十一月十九日日本浦發
公州丸	十一月二十日日本浦發
公州丸	十一月廿一日日本浦發
公州丸	十一月廿二日日本浦發
公州丸	十一月廿三日日本浦發
公州丸	十一月廿四日日本浦發
公州丸	十一月廿五日日本浦發
公州丸	十一月廿六日日本浦發
公州丸	十一月廿七日日本浦發
公州丸	十一月廿八日日本浦發
公州丸	十一月廿九日日本浦發
公州丸	十二月一日日本浦發
公州丸	十二月二日日本浦發
公州丸	十二月三日日本浦發
公州丸	十二月四日日本浦發
公州丸	十二月五日日本浦發
公州丸	十二月六日日本浦發
公州丸	十二月七日日本浦發
公州丸	十二月八日日本浦發
公州丸	十二月九日日本浦發
公州丸	十二月十日日本浦發
公州丸	十二月十一日日本浦發
公州丸	十二月十二日日本浦發
公州丸	十二月十三日日本浦發
公州丸	十二月十四日日本浦發
公州丸	十二月十五日日本浦發
公州丸	十二月十六日日本浦發
公州丸	十二月十七日日本浦發
公州丸	十二月十八日日本浦發
公州丸	十二月十九日日本浦發
公州丸	十二月二十日日本浦發
公州丸	十二月廿一日日本浦發
公州丸	十二月廿二日日本浦發
公州丸	十二月廿三日日本浦發
公州丸	十二月廿四日日本浦發
公州丸	十二月廿五日日本浦發
公州丸	十二月廿六日日本浦發
公州丸	十二月廿七日日本浦發
公州丸	十二月廿八日日本浦發
公州丸	十二月廿九日日本浦發
公州丸	十二月三十日日本浦發
公州丸	十二月三十一日日本浦發

江原丸 大連・青島行	十二月 七日 仁川發
麗水丸	十二月 六日 仁川發
晉州丸 各埠開不建行	十二月 六日 仁川發
全州丸	每日午前 仁川發
南陽丸 楊口・楊口・陽州行	每日午前 仁川發
平安丸 往新大原山 本水開行 若不行 電報問 本水開行	十二月十九日 群山發 十二月六日 若松發

[illegible]

三
同
五
十二月十四日

法國共同大學株式會社
李斯(電話二〇八)
仁利路 山下興濟都
明日(電話四四七)
先出馬場 田口開濟都
南大門元街二六(一)七
草紙町大街 河村運送店

汽船釜山出帆廣告

○門司 神戶 大板行
小倉九 十二月十四日發五時鐘開

○小倉丸	十二月二日	豐崎十時開船
○門司、神戸	大阪行	
立神丸	九月十二日	日越五時開船
○元山、青森、浦鹽行		
立神丸	十二月九日	後十時開船
○元山、函館津、新庄、城津、酒井行		
第三零平丸	十二月一日	日越九時出帆
○門司、宇品	神戶、大阪行	
第三零平丸	十二月一日	日越六時開船
○佐賀、熊本、鹿原、雪駄、博多行		
天眞丸	九月廿六日	午後十一時開船
天眞丸	十一月廿六日	午後四時開船

寄出所：芝罘、大池、瀋陽、同興、永興、順德、大池、瀋陽、同興、永興、順德

1. The first part of the document is a title page. It contains the title of the document, the author's name, and the date of the document. The title is "The First Part of the Document". The author's name is "John Doe". The date is "1/1/2023".

馬上の御英姿仰ぎ見るも神々々
天には飛行機地には銃劍の光り

冬籠り研究

(三) 七人の子の母の経験談

しますし、又自分で家を持つて見た
事ことも腰こし々々ありました、又經濟上けいぎじやうの關かん
係けいから夏なつ向むかきの涼すずしいパ
ラツタ家いへに其その儘まま冬ふゆを過すごしたこ
ともありました

決定は拜觀期後二悠紀主基殿
大禮に御使用相成りし諸建物の處春門外の第二朝集所は
關し某大廳吏の談によれば諸方務所に充つる爲め下賜さ

續々下賜の願書出であるも何分
他の拜親期の四箇月を経ざれ
ば、然らずに決定するに至らざるも御所
の第一御集所は華族、會館、京都分
館の西北隅の空地に大典記念館とし
て建設すべく出願し居るを以て多分
に下賜さるゝ事となるべく建設
取致して懸念する事となるべしと

上海鎮守使を統轄せる陽路の與黨
 竹波等二十餘名各省通和し補遺方と最命

潜入し不軌を謀るこ
 報に接し段將軍は管下の軍
 身邊の警戒を加へた
 (奉天特電)

親しく握手の禮

京に滞在八日間の内、偶々御大典の
に逢つた此御大禮式には是非共参
して聖恩の鴻大無邊なるを感得
まつたの事、誠に女もさうである。
室の我々敬愛者に対しての御授簡の如きも
限りない事であつて不肖な私に對してさ
今改めて再度の御授簡があつた様な有様であ

萬歲を唱和致し
其日は特に時間を割いて貰つて
支那現在の基督敎は天主教が最も
である。是れ同敎が支那に古い歴史
を持つてゐる事。主として京國で

本^{ほん}の皇^{こう}室^{しつ}の爲^{ため}の演^{えん}説^{せつ}をした其^{その}れ
 確^{たしか}に私^{わたし}の抱^{いだ}懷^{わい}してゐる感^{かん}想^{さう}を述^の
 れた次第^{しだい}である則^{すなは}ち

不^ふつとと、喜^きが三^{さん}の匪^ひ因^{いん}であるか
 不^ふつとと、喜^きが三^{さん}の匪^ひ因^{いん}であるか

信^{しん}徒^とは百^{ひゃく}五十^ご萬^{まん}
 と稱^{しょう}せられてゐる新^{しん}教^{きやう}の信^{しん}徒^とは
 と稱^{しょう}せられてゐる新^{しん}教^{きやう}の信^{しん}徒^とは

萬邦に類似の無い帝室が其國民に對する態度
 は既に慈父の子女に向ふが如く國民が上を仰
 ぐのは又天に對して伏すやうに単純なり
 米兩國が最も多く其他露西亞、瑞
 諾威、丁抹、獨逸、瑞西、佛蘭西、瑞
 西班牙等各國から來てゐる私は今

無く無限の優越とを誇つてゐる日本帝國の島嶼が宗教に對する或は固有の神道と云ひ朝鮮を越て渡つた支那の儒教と云ひ支那に變遷した印度の佛教と云ひ五つある頭腦を持つてゐる充分な理解力も

てゐるが、先帝臣の宗教に對する若しくは
我々教徒者に対する御念慮は實に言明に絶し
てゐる日本朝廷の皇室は實に帝國進歩發展の
莫い事である若し龐然たる彼の支
那の大國に善良な指導省を得たなら
非常な發達を爲すであらう其れは

源氏である。先帝陛下が朱鳥に對する御座處
は又結構するに足るアラシト將軍夫妻が私め
て拜謁仰付られた時の如き
思はれる袁世凱氏が皇帝の位に登

四年前の革命の
 死か、に懷ふ平和の爲めに擾亂の無い
 れたる結果同女を殺害して自分も白
 殺せんと決心し十月三日夜、瀕死は成
 薄方を訪問したるより此機

採集は全く好ましくない事だ、故に
 支那の爲めに祈る時常に平和な
 らうと念じてゐる要するに我々は
 支那を見聞して來て愈々益々日
 本及び朝鮮に教養を執つてゐる事
 實を認めてゐる殆んどあらゆる自由
 は、今日は想ふ程明日は愈々

選すべからずとなし小刀刀
 共にならぬ公園に趣くべし
 同行し前記の園所に至るや同女
 共にならぬ公園に趣くべし
 同行し前記の園所に至るや同女
 共にならぬ公園に趣くべし

園内に誘致し突然持たる小刀を
 女の前髪喉部に刺して深傷を負
 し外三箇所を傷を負はしめる爲
 多數の出血と共に遂に死に至

初冬小品(圖)日南——前川千帆

本年十月三日夜京城明治町一丁目佛
 西教會堂下總督府農商工部鑛務課
 爲め十二月一日京城地方法院にて
 頰を燒棄て或は人知れず投棄した
 爲め十二月一日京城地方法院にて

分室前にて女殺し事件ありたること
は其當時略報する所ありしが加害者
は京畿道始興郡南面生れ京城昭格洞
立會館都書記の係りにて成澤は意
十五年晩均是答六十に判決された

別の際兩名交渉する所あり現に權繼
汝の居住し居る松峴洞二十六番地の
家屋を尹成溥が貰ひ遷したる關係上
暫らく京都に療養し殆んど病癒
たるを以て歸任其職に奔走し現に
十三日、船客寺無蓋車にて

三年舊三月頃より同女と通じ其後兩
親妻子ある身にて家族等は
資に泣き居るをも願ず同
山を發し京義總觀察の途に上り國
線路の踏査を爲し二十五日歸國途
中急患を蒙れしが翌二十六日は押し

金を得たる上尙同棲しむたるに本年
八月同女は京畿道驪州郡北内面
の金工告なるもの商用の爲め入京
し程なりしが翌廿九日一日引籠り

中同人の姿となり仁浩と同棲するこ
 後三十日更に湖南線に向ひて觀察
 途に上らんと頻りに準備中なりし



下附ありたり
白國救濟
慈善演藝會

城に於ける有志婦人の熱心なる
により目下著々準備中なる自耳
寡婦孤兒救済慈善演藝會は來る
午後七時より鐘路通基督救育
館に於て盛大に舉行せらるるべ
しと出演曲目は次の如し

第一部 △ヒアノ獨奏、伊太利人トリキ
夫人△獨唱、スオス氏△ヒアノ獨奏、トリキ
夫人△婦人合唱有志十二名△樂樂李王職

大連乗込

● ハムレットの大入
有樂館にて開映したるハムレット

活動寫眞は畫面の優美鮮明にして、
 高麗なるため非常なる觀客の
 好評を博し加ふるに的確にして、

つ
にしたり 尙ほ二日目より餘興とし
臨時雇りんじこなる喜劇二巻を映寫する
田代氏の講堂建立會
の
の

托桑岡千太郎氏は戦に逝去せる敵父の香
に代へ金十五圓を勤心寺に願所内大興而
建立會に寄贈したり

柄のものを取揃へ折柄の大人氣なものを
 小點の景品を添へると云ふものである殊に年
 の祝服又は普通贈答等には御大典に因める

唐川吳服店の賣出し
手拾町唐川

東亞賣出廣告正誤 昨二日朝報
聞東亞煙草株式會社製煙年末景
價頗低なる品多致あり監査團檢一頁以上損
に對しては 漏袋以外に景品即ち差出す由

大賣出し廣告欄内景品種目の
等數島拾四本とあるは十袋宛の
券百九十二枚の誤植に付き訂正す

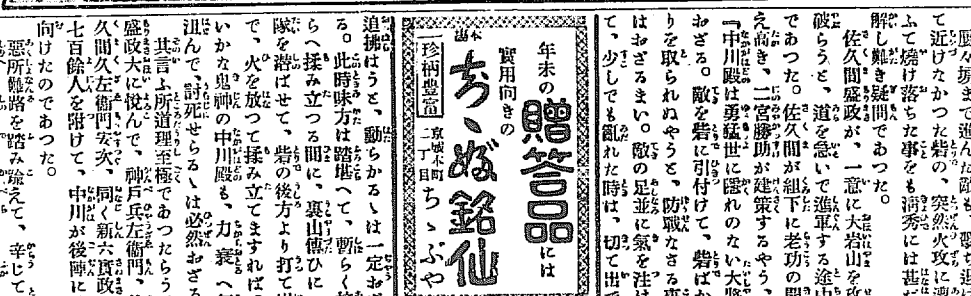
●普通 一、前金三十條（海關）
二、前金一、二條（金五、六條）

[illegible][illegible]

須藤南翠作
筒井年峰書

討たせては一大事と、佐久間が左右より切つてかゝる。

聲が三度鳴りおこり、唐風の
 砦の上方を仰ぎ見るに、猛火焔々と燃
 え驚り、黒煙高く天を焦して、只大
 勢に苦心した大岩山の砦は、あはれ
 れて火火に焼かるのであつた。
 周より期した事ではあつたが、法
 石に之を割れた清秀は、前に敵の在る
 所に燃えて、茫然として焼け落つて
 る櫓の水柱を噴めてゐた。



の、
人々も
大岩山は、全く落城したものであった。

後方に潜ひ出た神戶等は、深く陰に埋伏して、時刻の移るを待つてゐたが、時分はよしと、谷を出つて七百餘人に持たせたる投炬火に火をつけてかけた。投炬火を出すのに、投げかけられぬやうな密書で知らせる。火は門を焼き、櫓を落し、火槍の礮を包む下より、突き通り切り捲り、無二三に戦ふたので中川が待共、命を捨て、戰ふのを盛石で作った身でもないで、各其所に切り死にして、小右衛門之助等も、大小數箇所を負傷したが、猛火を流す防敵したが、煙に閉ち、岩は燒かれ、崩れ落ちて来た。大岩山は、全く落城したのである。

茲に有名な東京順天堂醫院院長は口を
已て此藥のい肺病に難く有ゆる
藥劑を以て色々に治療して見ても
効がないので悲嘆の中に月日を空
つゝありしが氏は如何にしても此
病を以て極力治療し又此の病
患を以て極力治療したる氏の實
等専門醫の助けもあり嘗て苦心の
見せられた不思議の特効藥ニ
フルの奇効と自己獨特の療法に依
一時は迎へ流ると思つた難病も遂
に全快せられたる事の司病者にも

秘訣は既に幾千人であるから、
 此の事である此の上氏の希望は世間



秘訣は既に幾千人であるから、
 此の事である此の上氏の希望は世間

く津々浦々に至るまで不幸にして、
 病氣で煩悶して居られる患者に、自分
 の全快した療法を知らせ、其説ひを以
 て大したの事であるから、直に東京
 本橋吳服町順天堂藥院長宛へガ
 ンにて申込、肺病の治る理由を書いた
 記大書冊も有力なる全治證書の送附
 を受けられたら非常の御参考にな
 うと思ひ升

○肺病患者者寶典

東橋大勳位
 久我健位 題
 土方正二位 字
 第五十九版

○有力の全治證據

海濱留士 證
 本多賢士 明

院長全快歌
 空氣候養
 精神熱氣
 咯血不咳
 呼吸煩悶
 下咽喉痛
 咳嗽痰多
 肺癆吐血
 肺癰汗法
 痛眼法法

○痔と○腸膜
又ハセギの病にて困難する人。或は
あまりの請病を併發し、困窮せる
より直に順天堂醫院へ申入服薬
治を受けられたがよい。

○生

告せられし通りである……○生

小嶋先生、醫學士の本多先生、トク
小島先生、醫學士の諸大先生、肝痛の
都さして實際其効力の卓絶なるは
ニコールである。と敬慕讃謝せられ
このことは東京大阪の各大新聞に
告せられし通りである……○生

酒清良醇

大阪府堺市
肥塚源次郎



東京の美人美男子となる。(資生堂)
 白根 神田和泉梅隊 松本 藥店

相^{あひま}絶^た
 柔^な對^{たい}
 軟^な對^{たい}

されて
 りしや
 なるはなし。此のソ
 風にも飛ばず空際も
 地最も良し。伸縮自
 いなく償又主廉なり

大崎組 商會
 大阪市東區安土町四丁目

創製元
大坂市松屋町
小西久兵衛

主成分より成れ
た材料にして効果頗る

● 瓶約半升分
● 金銀両五拾圓
● 金八拾圓

養

營

● 養料各
● 味方な
へは水
飽方

港石川齋生堂 安東市柳井上製菓